

**FRUIT JUICE SQUEEZER**

Patent Number: JP2002125847  
Publication date: 2002-05-08  
Inventor(s): OTOMO SHINOBU  
Applicant(s): OTOMO SHINOBU  
Requested Patent: ☐ JP2002125847  
Application Number: JP20000366277 20001025  
Priority Number(s):  
IPC Classification: A47J19/02; A23L1/212; A23N1/00  
EC Classification:  
Equivalents:

---

**Abstract**

---

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a fruit juice squeezer which can separate the flesh of fruit contained in the fruit juice squeezed from the fruit, and the fruit juice quickly.

**SOLUTION:** The fruit juice squeezed from a fruit A which is pressed on a projection part 1 of squeezer body 1, falls down toward the lower part of the squeezer 1 body, and after it falls through each plate-shaped part 3 of a slide body 3, it falls onto the net of a filter body 2. By this, the flesh of fruit which cannot go through the mesh of a net 2a is left on the net 2a, while the fruit juice other than that passes through the net 2a and is accommodated in a container body 4. At that time, if the surface of the net 2a is covered with the flesh of fruit, causes clogging up of the net 2a, and it prevents the fruit juice from flowing down, the slide body 3 can be moved left and right along the circumference direction. Then the flesh of fruit left on the net 2a moves to the slide wire direction by a flesh of fruit moving body, and the fruit juice flows downward from the net 2a through the part where the flesh of fruit B is removed.

---

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-125847

(P2002-125847A)

(43) 公開日 平成14年5月8日 (2002.5.8)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	キーワード (参考)
A 4 7 J 19/02		A 4 7 J 19/02	A 4 B 0 1 6
A 2 3 L 1/212		A 2 3 L 1/212	B 4 B 0 6 1
A 2 3 N 1/00		A 2 3 N 1/00	A

審査請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-366277(P2000-366277)

(22) 出願日 平成12年10月25日 (2000. 10. 25)

(71) 出願人 500550670

大伴 忍

東京都練馬区北町3-9-1-103

(72) 発明者 大伴 忍

東京都練馬区北町3-9-1-103

Fターム (参考) 4B016 LG01 LP01 LP02 LT08

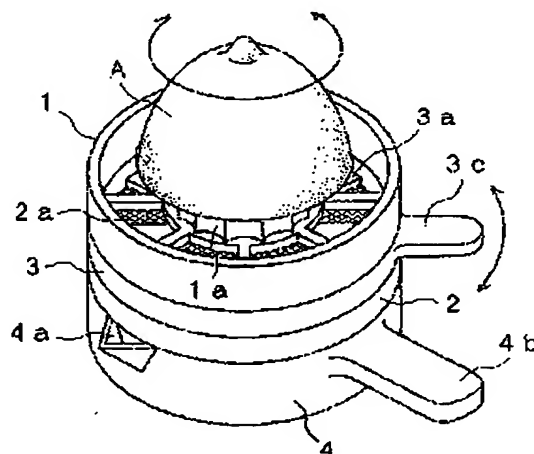
4B061 BA11 BB07 CC04 CC06 CC13

(54) 【発明の名称】 果汁搾り器

(57) 【要約】

【課題】 果物から搾り出した果汁に含まれる果肉を速やかに果汁と分離することのできる果汁搾り器を提供する。

【解決手段】 搾り器本体1の突起部1aに押し付けられた果物Aから搾り出された果汁は、搾り器本体1の下方に落下するとともに、摺動体3の各板状部3aの間を通過して濾過体2のネットに落下する。これにより、ネット2aの網目を追わない大きさの果肉がネット2a上に捕獲され、それ以外の果汁はネット2aを通過して容器体4に受容される。その際、ネット2aの上面が果肉で覆われ、ネット2aが果肉で目詰まりを生じて果汁の流出が妨げられた場合には、摺動体3を周方向に往復するように回転操作すると、ネット2a上の果肉が摺動体3の果肉移動部によって摺動方向に移動し、果肉Bを除去された部分から果汁がネット2aの下方に流出する。



(2)

特開2002-125847

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 果物の果肉部分が押し付けられる所定形状の突起部を有し、突起部に押し付けられた果物から搾り出される果汁を突起部の周囲から下方に落下させるように形成された搾り器本体を備えた果汁搾り器において、

前記搾り器本体の下方に配置され、搾り器本体から果汁と共に落下する所定の大きさ以上の果肉を捕捉する濾過体と、

搾り器本体と濾過体との間に配置され、所定の操作により濾過体の果肉捕捉面に沿って撻動させることにより濾過体上の果肉を撻動方向に移動させる撻動体とを備えたことを特徴とする果汁搾り器。

【請求項2】 前記撻動体を搾り器本体の周方向に回動することにより濾過体の果肉捕捉面に沿って撻動するように形成し、

撻動体の所定部分には撻動体を回動操作可能な少なくとも一つの把持部を設けたことを特徴とする請求項1記載の果汁搾り器。

【請求項3】 前記濾過体側から落下する果汁を受容可能な容器体を備えるとともに、

搾り器本体、濾過体、撻動体及び容器体を互いに着脱自在に設け、

搾り器本体と容器体とを濾過体及び撻動体を除いて互いに直接結合可能に形成したことを特徴とする請求項1または2記載の果汁搾り器。

【請求項4】 前記撻動体は、撻動体を濾過体の果肉捕捉面に沿って所定方向に撻動させると前記果肉捕捉面上の果肉を撻動方向に移動させる果肉移動部と、撻動体を他の方向に撻動させると果肉捕捉面上の果肉を果肉捕捉面に押し付けてすり潰す果肉すり潰し部とを有することを特徴とする請求項1、2または3記載の果汁搾り器。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、果汁を用いた飲料等を作る際に使用する果汁搾り器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】一般に、レモン、オレンジ、ライムまたはグレープフルーツ等の柑橘系果物の果汁を用いてジュースやカクテル等の飲料を作る場合には、例えば実開平7-27413号公報に記載されている果汁搾り器が使用される。この果汁搾り器は、半分に切断した果物の果肉部分が押し付けられる突起部を有し、突起部に押し付けられた果物から搾り出される果汁を突起部の周囲から下方に落下させ、専用の容器によって受容するようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、前記果汁搾り器によって搾られた果汁には果肉が混在していることが多いが、飲料の種類等によっては果汁に果肉が含まれ

2

ていない方が好まれる場合がある。このような場合、従来では果汁搾り器で搾られた果汁を調理用のネット等で濾過することにより、果汁と果肉とを分離するようにしている。

【0004】しかしながら、ネットを用いて果汁と果肉とを分離する場合、ネットの表面が果肉で覆われて目詰まりを生じ易く、果汁がネットから速やかに流出しないことが多い。このため、目詰まりを生じたときは他の器具等でネットの表面から果肉を取除きながら果汁を濾過するようにしているが、多忙な飲食店の業務等においては、このような煩雑な作業を行う時間的な余裕がないのが現状である。

【0005】本発明は前記事情に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、果物から搾り出した果汁に含まれる果肉を速やかに果汁と分離することのできる果汁搾り器を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は前記目的を達成するために、請求項1では、果物の果肉部分が押し付けられる所定形状の突起部を有し、突起部に押し付けられた果物から搾り出される果汁を突起部の周囲から下方に落下させるように形成された搾り器本体を備えた果汁搾り器において、前記搾り器本体の下方に配置され、搾り器本体から果汁と共に落下する所定の大きさ以上の果肉を捕捉する濾過体と、搾り器本体と濾過体との間に配置され、所定の操作により濾過体の果肉捕捉面に沿って撻動させることにより濾過体上の果肉を撻動方向に移動させる撻動体とを備えている。

【0007】これにより、搾り器本体の突起部に押し付けられた果物から搾り出された果汁は、搾り器本体の下方に配置された濾過体の果肉捕捉面に落下し、所定の大きさ以上の果肉が濾過体によって捕捉される。その際、濾過体の果肉捕捉面が果肉で覆われて果汁の流出が妨げられた場合には、撻動体を所定の操作により濾過体の果肉捕捉面に沿って撻動させると、濾過体上の果肉が撻動体によって撻動方向に移動し、果肉が除去された部分から果汁が濾過体の下方に流出する。

【0008】また、請求項2では、請求項1記載の果汁搾り器において、前記撻動体を搾り器本体の周方向に回動することにより濾過体の果肉捕捉面に沿って撻動するように形成し、撻動体の所定部分には撻動体を回動操作可能な少なくとも一つの把持部を設けている。これにより、請求項1の作用に加え、撻動体の把持部を把持して撻動体を回動操作することにより、撻動体が濾過体の果肉捕捉面に沿って撻動する。

【0009】また、請求項3では、請求項1または2記載の果汁搾り器において、前記濾過体側から落下する果汁を受容可能な容器体を備えるとともに、搾り器本体、濾過体、撻動体及び容器体を互いに着脱自在に設け、搾り器本体と容器体とを濾過体及び撻動体を除いて互いに

(3)

特開2002-125847

3

4

直接結合可能に形成している。これにより、請求項1または2の作用に加え、搾り器本体側で搾り出された果汁が容器体に収容されるとともに、搾り器本体と容器体とを濾過体及び摺動体を除いて直接結合すれば、果肉の混在する果汁が容器体に収容される。

【0010】また、請求項4では、請求項1、2または3記載の果汁搾り器において、前記摺動体は、摺動体を濾過体の果肉捕捉面に沿って所定方向に摺動させると前記果肉捕捉面上の果肉を摺動方向に移動させる果肉移動部と、摺動体を他の方向に摺動させると果肉捕捉面上の果肉を果肉捕捉面に押し付けてすり潰す果肉すり潰し部とを有している。これにより、請求項1、2または3の作用に加え、摺動体を所定方向に摺動させると、果肉捕捉面上の果肉が摺動体の果肉移動部によって摺動方向に移動し、果肉が除去された部分から果汁が流出する。また、摺動体を他の方向に摺動させると、果肉捕捉面上の果肉が摺動体の果肉すり潰し部によって果肉捕捉面に押し付けられてすり潰され、果肉捕捉面上の果肉からも果汁が搾り出される。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、図1乃至図5を参照し、本発明の第1の実施形態について説明する。即ち、図1は果汁搾り器の全体斜視図、図2はその側面断面図、図3はその分解斜視図、図4はその使用状態を示す斜視図、図5はその要部側面断面図である。

【0012】この果汁搾り器は、円形に形成された搾り器本体1と、搾り器本体1の下方に配置された濾過体2と、搾り器本体1と濾過体2との間に配置された摺動体3と、摺動体3の下方に配置された容器体4とからなり、これらは互いに着脱自在に形成されている。

【0013】搾り器本体1は、果物の果肉部分が押し付けられる突起部1aを有し、突起部1aの周囲には下方に貫通した複数の開口部1bが周方向に配設されている。突起部1aは上方に突出した略円形形状をなし、その周面は周方向に凹凸をなすように形成されている。

【0014】濾過体2は摺動体3の下端に嵌合する円筒状に形成され、その上端側には搾り器本体1の下面に対向するネット2aが設けられている。ネット2aは金属製の網等からなり、その網目は一粒が平均的な大きさ以上の果肉を捕捉できる程度に形成されている。即ち、ネット2aは果肉捕捉面をなす。

【0015】摺動体3は搾り器本体1の下端に嵌合する円筒状に形成され、その内側には中央から外側に向かって延びる複数の板状部3aが周方向に間隔をおいて設けられている。各板状部3aの下面には、図5に示すように下方に向かって凸状に突出する果肉移動部3bがそれぞれ設けられ、各果肉移動部3bは前記ネット2aの上面に近接するように配置されている。また、摺動体3は搾り器本体1及び濾過体2に周方向に回転自在に嵌合しており、その外周面の一箇所には摺動体3を回転操作可

能な把持部3cが突設されている。

【0016】容器体4は濾過体2の下端に嵌合する有底筒状に形成され、その周面の一箇所には外側に突出する果汁注出口4aが設けられている。また、容器体4の外周面には、果汁注出時に容器体4を把持するための取手4bが設けられている。

【0017】以上のように構成された果汁搾り器においては、図4に示すように略半分に切断した果物Aの切断面を搾り器本体1の突起部1aに押し付けるとともに、適宜周方向に回転動作を加えることにより、果物Aから果汁が搾り出される。果物Aから突起部1aの周面に搾り出された果汁は、搾り器本体1の各開口部1bを介して摺動体3側に落下するとともに、摺動体3の各板状部3aの間を通過して濾過体2のネット2a上に落下する。これにより、ネット2aの網目を通らない大きさの果肉がネット2a上に捕捉され、それ以外の果汁はネット2aを通過して容器体4に収容される。その際、図5(a)に示すようにネット2aの上面が果肉Bで覆われ、ネット2aが果肉Bで目詰まりを生じて果汁Cの流出が妨げられた場合には、図5(b)に示すように摺動体3を周方向に往復するように回転操作すると、ネット2a上の果肉Bが摺動体3の果肉移動部3bによって摺動方向に移動し、果肉Bを除去された部分から果汁Cがネット2aの下方に流出する。

【0018】このように、本実施形態の果汁搾り器によれば、搾り器本体1で搾り出された果汁に含まれる果肉Bを濾過体2のネット2aで捕捉するようにしたので、果汁と果肉Bとを確実に分離させることができる。その際、ネット2aが果肉Bで目詰まりを生じて果汁Cの流出が妨げられた場合には、摺動体3を回転するだけの簡単な操作により、ネット2a上の果肉Bを移動させて果肉Bを除去した部分から果汁Cをネット2aの下方に流出させることができるので、果物Aから搾り出した果汁Cに含まれる果肉Bを速やかに果汁Cと分離することができる。

【0019】尚、前記実施形態で示した果肉移動部3bの断面形状は一例であり、例えば断面が三角形等、他の形状を採用することも可能である。

【0020】また、図6は本発明の他の実施形態を示すものである。即ち、本実施形態では前記摺動体3の各板状部3aの下面側に、摺動体3の一方の摺動方向側に設けられた果肉移動部3dと、摺動体3の他方の摺動方向側に設けられた果肉すり潰し部3eとをそれぞれ備えている。この場合、果肉移動部3dはネット2aの上面に対して垂直な面をなすように形成され、果肉すり潰し部3eは板状部3aの幅方向中央から一端側に向かって徐々にネット2aとの間隔が広くなるように断面が弧状に形成されている。

【0021】本実施形態においては、図6(a)に示すように摺動体3を一方に摺動させると、ネット2a上の

(4)

特開2002-125847

5

果肉Bが果肉移動部3dによって撚動方向に移動し、前記実施形態と同様、果肉Bを除去された部分から果汁Cがネット2aの下方に流出する。また、図6(b)に示すように撚動体3を他方に撚動させると、果肉すり潰し部3eがネット2aの上面に沿って撚動し、果肉すり潰し部3eによってネット2a上の果肉Bがネット2aの上面に押し付けられてすり潰される。これにより、果肉Bから新たな果汁Cが搾り出され、ネット2aから下方に落下する。その際、果肉すり潰し部3eは断面円弧状に形成されているので、ネット2a上の果肉Bを果肉すり潰し部3eとネット2aとの間に確実に捉えることができ、果肉Bを効率的にすり潰すことができる。

【0022】このように、本実施形態によれば、撚動体3を一方及び他方にそれぞれ回転することにより、果物Aから搾り出した果汁Cに含まれる果肉Bを速やかに果汁Cと分離することができるとともに、ネット2a上に残った果肉Bからも新たな果汁Cを得ることができるので、果物Aから果汁Cを無駄なく搾り出すことができる。

【0023】また、前記実施形態の果汁搾り器では、搾り器本体1、濾過体2、撚動体3及び容器体4が互いに着脱自在に設けられているので、図7に示すように搾り器本体1と容器体4とを濾過体2及び撚動体3を除いて互いに直接結合すれば、果肉を除去していない果汁を容器体4に収容することもできる。

【0024】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1の果汁搾り器によれば、濾過体の果肉捕捉面が果肉で覆われて果汁の流出が妨げられた場合でも、簡単な操作により、果肉捕捉面を覆う果肉を除去して果汁を濾過体から流出させることができるので、果物から搾り出した果汁に含ま

6

まれる果肉を速やかに果汁と分離することができ、多忙な飲食店の業務等に使用する場合には極めて有利である。

【0025】また、請求項2の果汁搾り器によれば、請求項1の効果に加え、撚動体の把持部を把持して回転するといった極めて簡単な操作によって撚動体を撚動させることができるので、実用上極めて有利である。

【0026】また、請求項3の果汁搾り器によれば、請求項1または2の効果に加え、果肉を除去していない果汁を容器体に収容することもできるので、果肉を含む果汁と含まない果汁とを任意に選択することができ、飲料の種類等に応じて的確に使い分けることができる。

【0027】また、請求項4の果汁搾り器によれば、請求項1、2または3の効果に加え、果汁と分離させた果肉からも新たな果汁を得ることができるので、果物から果汁を無駄なく搾り出すことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施形態を示す果汁搾り器の全体斜視図

【図2】果汁搾り器の側面断面図

【図3】果汁搾り器の分解斜視図

【図4】果汁搾り器の使用状態を示す斜視図

【図5】果汁搾り器の動作を示す要部側面断面図

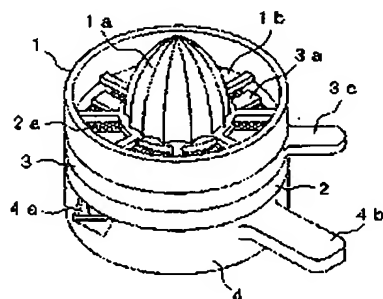
【図6】本発明の第2の実施形態を示す果汁搾り器の要部側面断面図

【図7】果汁搾り器の他の使用方法を示す斜視図

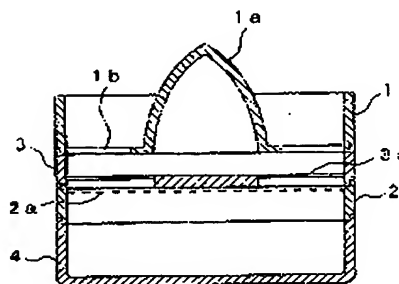
【符号の説明】

1…搾り器本体、1a…突起部、2…濾過体、3…撚動体、3b…果肉移動部、3d…果肉すり潰し部、3e…果肉移動部、4…容器体、A…果物、B…果肉、C…果汁。

【図1】



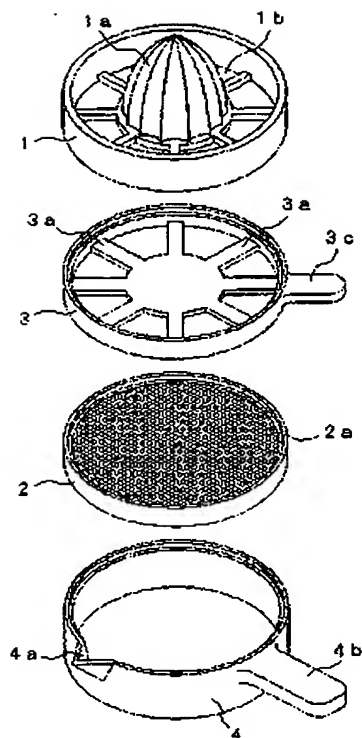
【図2】



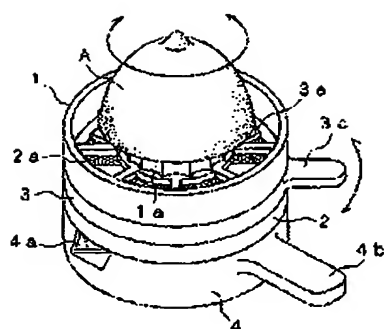
(5)

特開2002-125847

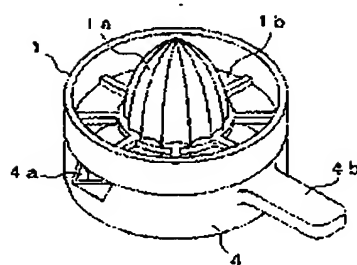
【図3】



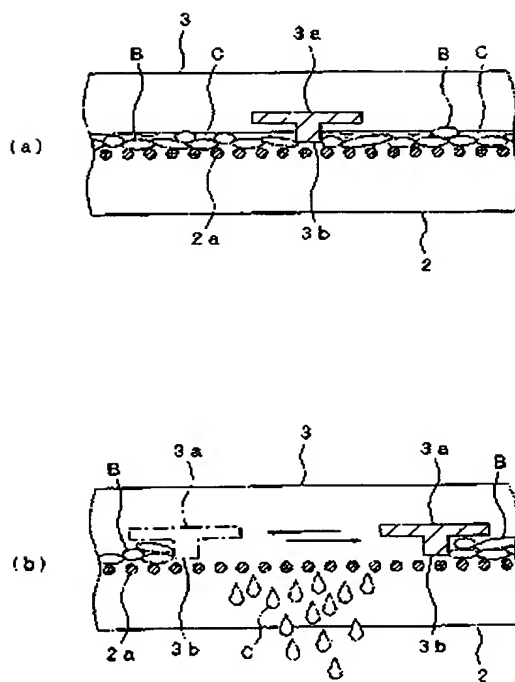
【図4】



【図7】



【図5】



(5)

特開2002-125847

【図6】

